

令和元年度第1回日進市総合教育会議 議事録

日 時 令和元年8月20日(火) 午後1時30分から午後2時55分まで

場 所 日進市役所本庁舎4階第3会議室

出 席 者 近藤裕貴(市長)、久保田力(教育長)、成田ゆき江(教育長職務代理者)、森本直樹(教育委員会委員)、藤井美樹(教育委員会委員)、小林秀一(教育委員会委員)、伊藤志門(教育委員会委員)

欠 席 者 無

事 務 局 石川達也(企画部長)、辻武(企画部調整監)、水野隆史(企画部次長兼企画政策課長)、安彦直美(企画政策課課長補佐)、山浦勝義(企画政策課企画経営係長)、中根友樹(企画政策課企画経営係主事)

説明の為に出席した者 市川秋広(教育部長)、出原真路(教育部次長兼学校教育課長)、高田由紀(主任指導主事)、加藤誠(教育総務課長)、鬼頭聡(生涯学習課長)、嶋崎典佳(教育総務課課長補佐)、伊東幸仁(こども福祉部長)

傍聴の可否 可

傍聴の有無 有(4名)

次 第 1 開会
2 あいさつ
3 議題
(1) キャリア教育について
4 その他
・放課後児童対策について

配付資料 資料1 キャリア教育について
資料2 放課後児童対策について

発 言 者	内 容
	1 開会
	2 あいさつ
	3 議題
	議題(1) キャリア教育について
市 長	議題(1)について、教育部から説明をお願いします。
教 育 部	(資料1に基づいて説明)
市 長	ただいまの説明について、ご質問やご意見はございませんか。
委 員	キャリアというのは、具体的にはどのようなことを指すのですか。
教 育 部	キャリアとは国の資料等によれば、「人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ね」ということになっておりますが、「キャリア」と「教育」を別に理解するのではなく、キャリア教育とは「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」として、捉えてもらったほうがわかりやすいかと思えます。

委員	キャリア教育と進路指導が同じであるのか、違うのかということと、キャリア教育が出てきた背景を教えてください。
教育部	キャリア教育の重要性が言われるようになった背景には、情報技術革新により、社会経済における環境の変化があり、産業界や日常生活でも大きな影響を及ぼしたことが大前提となっています。社会環境が変化する中で、人間関係がうまく構築できない、自分で意思決定ができない、自己肯定感が持てない、将来に希望を持ってないという子どもが増加してきたと指摘される時代がありました。その中で、平成11年に「キャリア教育」というものが、中央教育審議会の答申で出され公に示されました。これを受けて、国立教育政策研究所が平成14年11月に職業感、勤労感の育成が不可欠な時代を迎えたとの報告をしました。国では「若者自立・挑戦戦略会議」が平成15年6月に「若者自立・挑戦プラン」を作成しております。キャリア教育の推進はその中で重要な柱になったという背景がございます。
委員	つまりは、キャリア教育と進路指導は同じではないということですか。
教育部	定義的には、ほぼ両者に大差はなく、目指すところも一緒であるとされています。進路指導は、中学校や高等学校における教育活動とみなされてきたのに対し、キャリア教育は、それぞれの教育機関において実践されるだけでなく、成人も対象としている枠の広い捉え方をしているところが、進路指導と違うということでございます。
委員	キャリア教育の中に進路指導が含まれるという解釈でよろしいですか。
教育部	そのとおりです。
委員	では、キャリア教育と進路指導が同じであると解釈をしている学校には、指導が必要であると思います。
市長	私が考える街づくりの中で「キャリア教育日本一」というものがあります。私が思い描いていたキャリア教育について話をしようと思います。キャリア教育の説明を受けても、人それぞれ色々なイメージがあるため、本日は、少しでも「キャリア教育」という言葉についてコンセンサスが取れば良いと思います。私は、「キャリア教育」と「進路指導」は真逆のものであると思っています。そもそも教育というと子ども達に大人が与えるものというイメージであり、進路指導というと大人の経験豊富なものを子どもに教えるとか与えるイメージがあります。そうではなく、子どもたちが比較的小さいうちから自分が将来どういう人生を歩いていくかを思い描いたときに、なぜ勉強をするのかと問いかけても、簡単には答えは返ってこないと思います。もし親に問いかけたとしても、義務教育だからと答えが返ってくるかもしれません。キャリア教育とは自分は将来こういう仕事に就いて世の中に貢献したい、あるいは、子どもたちが自分の存在意義を確かめられるように導いてあげることです。そうすることで、自分も他人も大事にするようになると思います。では、何のために勉強をするのかというと、将来を目指すことのために必要であるからということになります。たとえば、医者になりたいならば、大学や大学院に行って勉強をしなければならない。そのために高校に行って勉強

	<p>をする。その高校に行くためには、中学校で勉強をしなければならないということになります。それを、早いうちからイメージできるようにきっかけを多く作っていけば、何のために勉強をするのかということに関しては、親が言う必要もなくなります。キャリア教育とは、子どもたちが自分の力で将来のことを考え、今何をすべきかを考えることを、教育者側がサポートすることだと考えています。その中には、職業体験も入ってくると思います。そんな思いがあって、「キャリア教育日本一」という言葉を使いました。何を持って日本一とするかは、色々な指標はありますが、そこを目指していきたいと考えています。</p> <p>私が各課を巡っている中で、保育士から、自分が中学生の時に保育士の職業体験をして、保育士になりたいと思ったという声をたくさん聞いております。そういった体験等を早い段階から経験していれば、自分が今何をすればよいかということに、つながってくると思います。家庭では自ら率先して自分のことをやったり、計画的に考えたりすることが可能になると思います。ただ、ひとつひとつの学校の事業でどういうことをやっていくかということについては、やり方は様々であります。大きな軸としては、今話したようなものが考え方としてありますので、皆さんにご理解いただき、それを基に教育行政をやっていきたいと考えております。こういった考え等に関しまして皆さんからご意見等をいただければと思います。</p>
委 員	<p>初めて「キャリア教育」という言葉を聞いた時に、私はびっくりしました。自分の中で「キャリア」のイメージは警察や官僚のエリートというものでした。国はエリート教育をするのだろうかと思いましたが、その中身は違っていました。しかし、世の中のイメージとして「キャリア教育」というと、エリート教育に結び付けられる方も多いのではないかと考えています。その大人のイメージを払拭することが子どもにも影響してくるのではないかと考えています。</p>
市 長	<p>確かに、そういう方もいらっしゃると思います。別に「キャリア教育」という言葉を使わなくても良いかとも思っています。</p>
教 育 長	<p>初等、中等教育現場においては、ゆっくり、ゆったり子どもを育てたいという思いもあります。人の生き方教育ということであり、自己実現のために、間口が広いものであると認識しています。体験等もその一つの方法であると思います。大人からみれば教育、子どもからみれば、学習となり、いかに引き出しを提供できるかが重要となるのではないのでしょうか。</p>
委 員	<p>キャリア教育を進めることは良いことだと思うが、進めると良いといわれているのはどんなことがあるのか、また、日進市が今後進めていったときに指標となるようなものがあれば、教えてください。</p>
教 育 部	<p>学ぶことと働くことの密接な関連性に気づく、学習意欲向上、自己有用感が高まる、多世代との交流が図れて、ルールや社会的なマナー等を学ぶ機会が増える、勤労観や職業観を身につけることができることが、効果の一つになるかと思っています。</p>

市 長	<p>例えば、小、中学校でキャリア教育という授業を他よりも多くやっていたら良いということでもないし、学校教育以外でも、日進市主催の講座等を毎週開催する等、日進市としては、これに力を入れていきたい。何をもって日本一ということは指標で図ることは難しいとは思いますが、どこのまちよりも力を入れて、胸を張って言えるようにしていきたい。</p>
委 員	<p>生涯学習の現場でも、体験等によって色々な職業に触れる機会があるのは良いことであると思いますが、実際に触れるのは一部の人になってしまうため、やはり学校現場での体験学習に関しては重要なことだと考えていますので、ぜひ継続していただきたいと思っています。ただ、働き方改革等によって、職場の改善ということもありますので、体験先の手配等に関して課題等があれば教えてください。</p>
教 育 部	<p>実際に体験に行く事業所を探すということが、負担になっているという声を学校から聞くことはあります。それでも、学校現場では調整をいただいている現状です。それ以外にも、調整するような事項が増えてきており、それらが負担となっているということも聞いています。小学校の体験学習において、日進市の保有しているバスを利用していますが、全庁的に利用しているために、非常に稼働率が高く、予約が取れないこともあります。その場合、手配は学校がして、保護者負担で実施しています。そのあたりについては、行政でできることはないか模索しているところです。</p>
委 員	<p>日進市全体でキャリア教育日本一を目指すということですので、学校現場だけではなく、事業所側から、体験に来てくださいというようになると良いかと思います。</p>
市 長	<p>委員のご意見のとおり、学校側に押し付けておいて、それが負担になっているということであれば、行政として負担を減らしていけるように取り組まなければいけないと思います。</p>
委 員	<p>あらためて、何をもって日本一とするのか、再度具体的に教えてください。</p>
市 長	<p>市民も、市のキャリア教育について、よくやっている市だと感じてもらえるように街づくりをしていきたいと思っています。そのためには、やっていることの数、内容、時間を集めて、日本一ということではなく、結果として、皆がキャリア教育に関して、日進市より優れているところはないと思えるようにしたいと思っています。指標となるような数字は、追っていけばいつか達成できますが、それによって、目指したい街が実現できるわけではありません。とにかく、そこを目指していきたい。</p>
委 員	<p>話を聞いていてキャリアとは、主体的に生きるということで、とても良い方向だと思いました。昔は、生業があって先祖代々の職業を子どもが継いでいくのは、レールが敷かれていた部分もありました。キャリア教育は、自ら幸せになれる教育だと思います。納得して自分が努力するという方向性が見える教育だと思います。保育所保育指針、幼稚園教育要領では「主体性のある子どもの育成」が幼児教育から小学校入学までに目指す姿となっています。後1年たてば学習指導要領も改訂されて、自分の意思をはっきりとみんなの</p>

	前で言う、また人の話を聞くという主体的に生きる教育が求められる時代になってきています。今までのように上の人からのいうことをちゃんときくことだけではなく、自らルールを敷き、自ら考えて価値観をもって、意欲を持って生きることが幸せにつながるということであり、キャリア教育はすばらしいものだと思います。
委員	職種に就くための取組みではなく、その職種に就いてどう生きていくかの力を育てるための取組みであると思っています。職場体験学習は、きっかけにはなると思いますが、それは全てではなく過程であって、どう生き抜いていくかを育てていくものであるため、指標となるものを定めるのは難しいと思います。
市長	時間的に難しいとは思いますが義務教育の期間中に、2回ぐらいは、まったく別の職種で体験ができるようにしたい。学校現場だけでなく、市をあげて応援できると良いと思う。
委員	体験することは、重要なことであるが、時間と受け皿を考えると学校現場では中学生の職場体験が精一杯なのが、現状であると思いますので、土日のイベントを積極的に活用できれば良いと思います。自分の子どもが、家庭教育推進委員会のボランティア体験を通して、そこに大人達がどのように関わっているか、どういう気持ちで関わっているのか、身近に感じることができています。ぜひ、そういったものを活用していけると良いと思います。
市長	行政や学校よりも、むしろ家庭で子どもたちに、将来について考えてもらうことがいかに大事なかを教えてもらえると、自主性を持った子どもに近づいていくのではないのでしょうか。家庭の支援、家庭の理解は非常に大事だと思っています。親も、一生かけて勉強していくことになるため、そういったものが、まさに生涯学習ではないかと思っています。日進市としても、力をいれて進めていきたいと思っています。
	その他 放課後児童対策について
市長	その他について、こども福祉部から説明をお願いします。
こども福祉部	(資料2に基づいて説明)
市長	ただいまの説明について、ご質問やご意見はございませんか。
委員	放課後子ども教室の利用率というのはどのようになっていますか。
こども福祉部	登録した人の中で、実際に利用した人の割合を出しています。保護者の就労等が必要ではなく、利用したい人が利用できるものとなっているため、万が一のためといって登録している人もいれば、たまにしか利用しない人も登録しているため、どうしても利用率は低くなってしまいます。
委員	放課後子ども教室には、児童1人あたりの面積が記載されていますが、放課後児童クラブには記載がありません。記載しなくてよろしいですか。
こども福祉部	放課後子ども教室には、児童1人あたりの面積の規定がありません。放課後児童クラブには、面積要件があり、児童1人あたり1.65㎡以上となっています。放課後児童クラブは、全て1.65㎡以上となっています。放課後子ども教室は、現状それを下回っているような現状があるということを示

	すために記載がしてあります。
教 育 長	厚生労働省関係の児童クラブと文部科学省関係の、放課後子ども対策の2本立てになっており、それが、国のレベルでは放課後子どもプランとして一つの事業となっていますが、基準等は混ざった状態になっており、学校や地域では2種類のもので存在する状態になっているのが、現状です。
市 長	本日のご意見は今後の事務の参考にさせていただきたいと思います。
事 務 局	これをもちまして、閉会とさせていただきます。
	閉会